

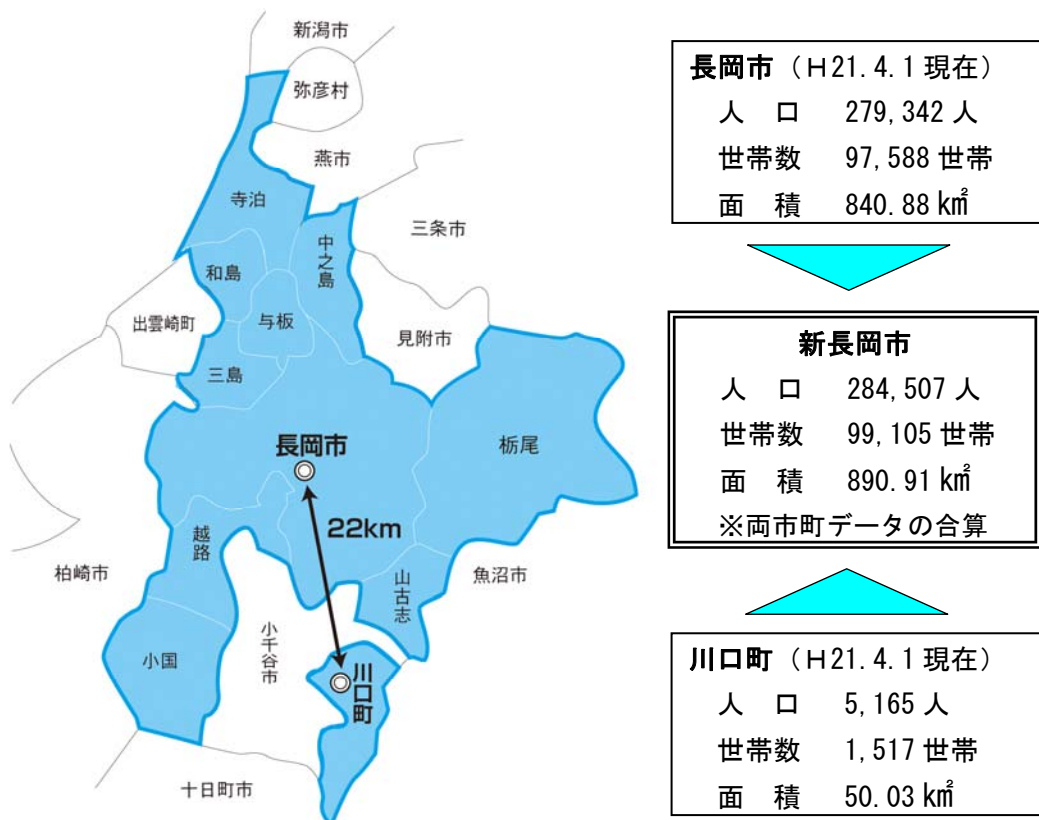
## 第2章 新市の概況

### (1) 位置と地勢

長岡市は、新潟県のほぼ中央、大河信濃川に沿って開かれた新潟平野の南端に位置する中越地方の中心都市です。市の中央を南北に信濃川が流れ、東は福島県境近くの守門岳、西は佐渡を望む日本海まで達する市域は面積約840km<sup>2</sup>に及び、新潟県中部を横断する形となっています。

川口町は、大河信濃川と清流魚野川の合流点に位置し、二大河川が形成する河岸段丘に開けた水と緑豊かなまちです。北魚沼郡に属する同町は、長岡市の中心部から南に約22km、車で30分の距離にあり、長岡市とは飛び地の位置関係となっています。冬期には山間地で3mの積雪がある豪雪地でもあります。

この2市町の合併で生まれる新長岡市は、山間部から海岸部までの変化に富んだ地勢が特徴的です。信濃川とその支流、そして魚野川を軸とした豊かな自然環境とそれらが織りなす美しい四季の彩りが新市の強みの一つであるといえます。



## (2) 新市の特性

長岡市は、平成 17 年 4 月 1 日に中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町の 5 町村と、平成 18 年 1 月 1 日には和島村、寺泊町、栃尾市、与板町の 4 市町村と合併し、現在の市域となりました。その人口は約 28 万人で、新潟市に次ぐ県内 2 番目の人口規模となっています。

平成 18 年には市制施行 100 周年を迎え、また平成 19 年 4 月には「特例市」の指定を受けました。

長岡市は交通体系が充実しており、上越新幹線と関越・北陸自動車道の高速交通網をはじめ、J R 信越本線、上越線、越後線の鉄道網、高速交通体系と地域をつなぐ国道などの道路網、さらには日本海の寺泊港と佐渡を結ぶ高速船の海上交通手段も備わっています。

これら有利な交通環境が支える産業面は、第一次産業から第三次産業まで多様に集積しています。優良な米産地として大きな役割を担う農業、先進的な電子部品や精密機械を中心に新潟県を代表する位置を占める工業、そして、商圏人口 73 万人の消費を支える広域的な商業拠点が形成されている商業といったように、農工商のバランスのとれた産業構造となっています。

人口約 5,200 人の川口町は、古くから舟運による妻有郷、上田郷への物資運搬の基点として、また、三国街道の宿場として集落を成し、交通の要衝として栄えてきました。

J R 上越線と J R 飯山線の分岐点にあり、幹線道路の国道 17 号が町中心部を貫いています。また、関越自動車道の越後川口 I C (S A 併設) を有し、首都圏まで 2 時間余りと交通利便性が高く、恵まれた条件下にあります。

中心部の丘陵地にあるスポーツ施設や宿泊施設、温泉施設が整備された「川口町運動公園」や、日本古来の伝統的河川漁法で知られる「川口やな場」には年間約 20 万人が訪れ、交流資源として重要な役割を担っています。

また、魚沼産コシヒカリや川口スイカ、魚野川のアユ、錦鯉などの特産品もまちの自慢で、緑豊かな自然環境と交流施設が調和し、訪れる人にやすらぎを与えています。

新市においては、10 の地域に川口町の区域を加えた 11 の地域が有する多様な人材、文化、産業、自然など、特色ある地域資源を有機的に連携・活用し、すべての地域の個性が輝き、ともに魅力を高めあう活力ある共存共栄のまちづくりを進めます。

### (3) 人口

平成 17 年国勢調査による総人口は、長岡市 283,224 人(※)、川口町 5,233 人で、新市の合計は 288,457 人です。長岡市では平成 12 年から 17 年にかけて減少しており、川口町では昭和 32 年の町制施行以来、人口減少が続いています。

なお、平成 21 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳による新市の人口は、284,507 人（長岡市 279,342 人、川口町 5,165 人）となっています。

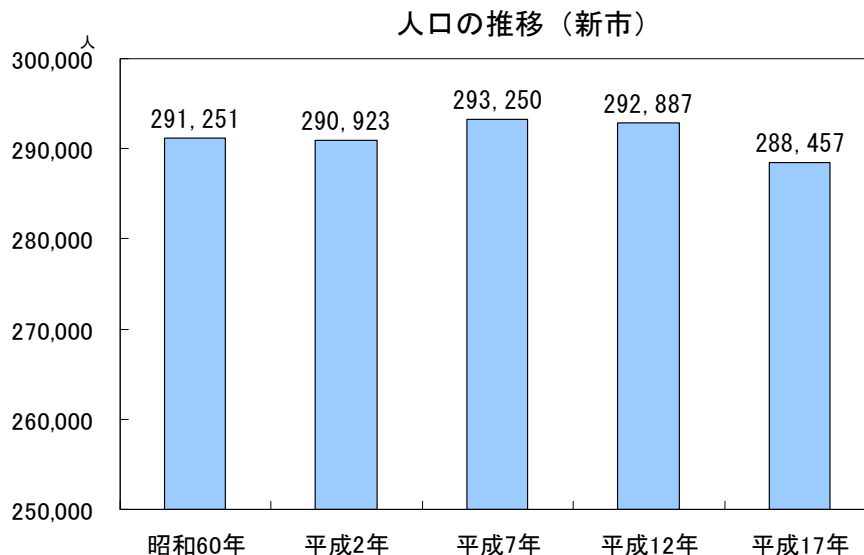
※本計画の統計的データにおける「長岡市」とは、平成 18 年 1 月の合併後の長岡市の範囲を示しており、数値は旧長岡市と合併 9 市町村分を合算しています。

#### ◆人口の推移

単位：人

	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年
新市 計	291,251	290,923	293,250	292,887	288,457
長岡市	284,769	284,580	287,139	287,139	283,224
川口町	6,482	6,343	6,111	5,748	5,233

資料：国勢調査



#### (4) 年齢階層別人口構成

長岡市、川口町のいずれも年少人口（14歳以下）および生産年齢人口（15歳以上64歳以下）が減少する一方で、老年人口（65歳以上）が増加しており、高齢化が進んでいます。

平成17年国勢調査によると新市の人口構成は、年少人口が13.8%、生産年齢人口が63.0%、老年人口が23.2%となっています。

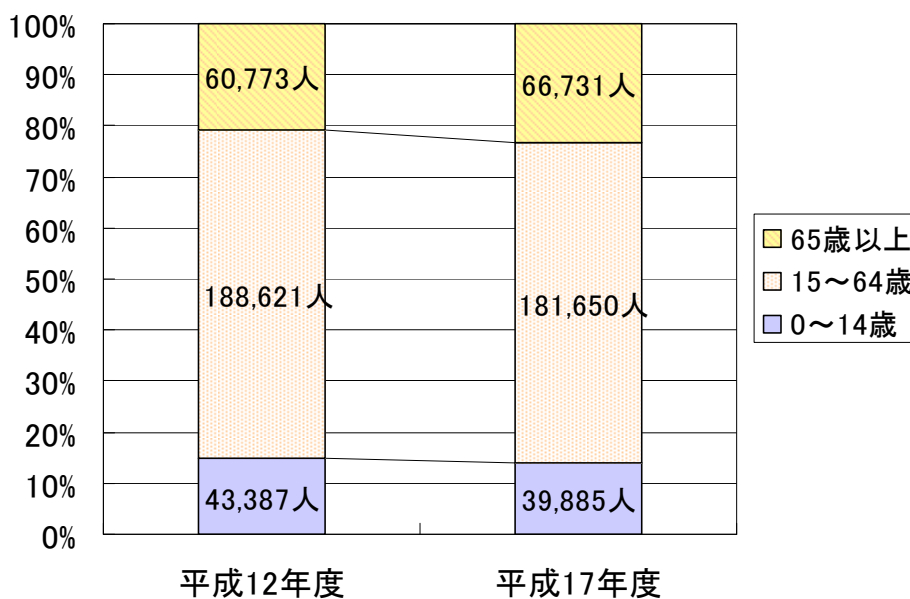
#### ◆年齢階層別人口構成の推移

単位：人、（ ）は構成比

	平成12年			平成17年		
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
新市計	43,387 (14.8%)	188,621 (64.4%)	60,773 (20.8%)	39,885 (13.8%)	181,650 (63.0%)	66,731 (23.2%)
長岡市	42,571 (14.8%)	185,116 (64.5%)	59,346 (20.7%)	39,199 (13.8%)	178,556 (63.1%)	65,278 (23.1%)
川口町	816 (14.2%)	3,505 (61.0%)	1,427 (24.8%)	686 (13.1%)	3,094 (59.1%)	1,453 (27.8%)

資料：国勢調査

年齢階層別人口構成の推移（新市）



## (5) 世帯数

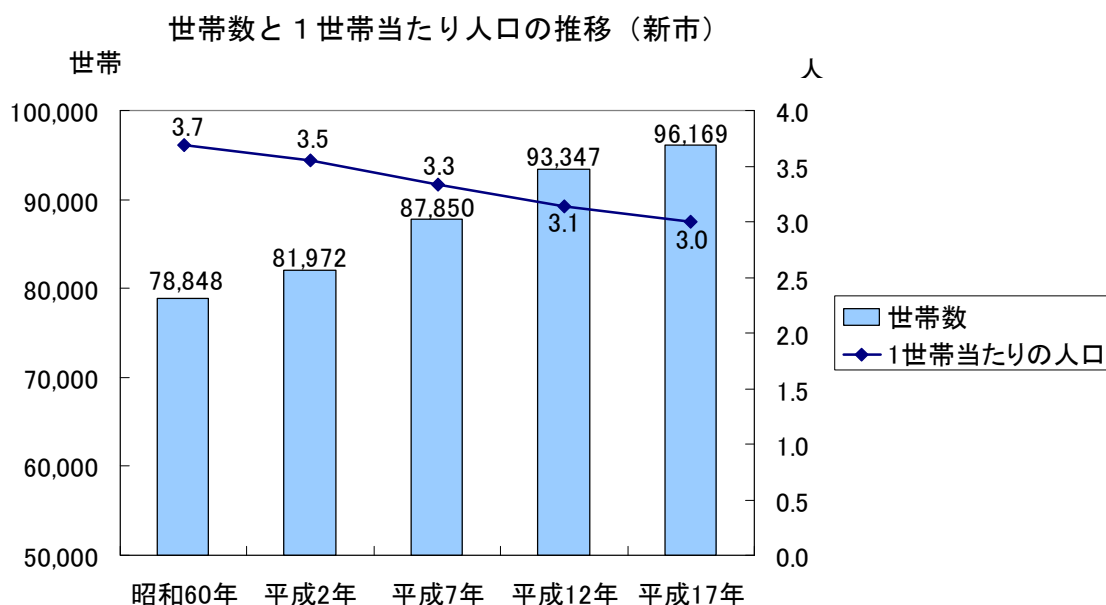
世帯数は、長岡市では増加傾向にありますが、川口町では平成12年までほぼ横ばいで推移した後、平成17年には中越大震災の影響で一時的に減少しました。1世帯当たりの人口は、両市町ともに減少しています。

新市では、世帯数は増加傾向、1世帯当たりの人口は減少傾向にあります。なお、平成21年4月1日現在の住民基本台帳による新市の世帯数は、99,105世帯（長岡市97,588世帯、川口町1,517世帯）となっています。

### ◆世帯数と1世帯当たりの人口の推移

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
新市計	世帯数	78,848	81,972	87,850	93,347	96,169
	1世帯当たり人口(人)	3.7	3.5	3.3	3.1	3.0
長岡市	世帯数	77,338	80,466	86,328	91,826	94,732
	1世帯当たり人口(人)	3.7	3.5	3.3	3.1	3.0
川口町	世帯数	1,510	1,506	1,522	1,521	1,437
	1世帯当たり人口(人)	4.3	4.2	4.0	3.8	3.6

資料：国勢調査



(6) 産業別就業者数

平成 17 年の産業別就業者数の割合を見ると、長岡市では、第三次産業が約 6 割であるのに対し、川口町では第一次産業と第二次産業の割合が比較的高くなっており、合わせて約 5 割を占めています。

新市における構成比は、現在の長岡市と大きく変わりません。

◆産業別就業者数の推移

単位：人

		平成 12 年		平成 17 年	
		就業者数	構成比	就業者数	構成比
新市 計	第一次産業	7,808	5.2%	8,103	5.5%
	第二次産業	56,701	37.7%	51,269	34.8%
	第三次産業	85,543	56.9%	87,289	59.3%
	総数	150,443	100.0%	147,279	100.0%
長岡市	第一次産業	7,465	5.1%	7,785	5.4%
	第二次産業	55,320	37.5%	50,175	34.7%
	第三次産業	84,263	57.2%	86,027	59.5%
	総数	147,422	100.0%	144,604	100.0%
川口町	第一次産業	343	11.4%	318	11.9%
	第二次産業	1,381	45.7%	1,094	40.9%
	第三次産業	1,280	42.4%	1,262	47.2%
	総数	3,021	100.0%	2,675	100.0%

※総数には分類不能な産業を含むため、内訳の合計と一致しない。 資料：国勢調査

